

紙芝居を使った インタープリテーション ～国立公園でどうかすか？

透過紙芝居（紙劇場）進行自然解説 ～如何在國家公園活用？

北九州インタープリテーション研究会 原賀いずみ

北九州自然解説研究會 原賀いずみ

はじめに

一、前言

今、日本の各地で、紙芝居など児童文化財を活用した地域おこしが行われている。写真は下関市の歴史体感紙芝居の様子で、ボランティアが地域に伝わる物語を語るライブな活動である。自転車に紙芝居の舞台をとりつけ移動。観客は1人でも、頼めば見事な演じ方で地域の魅力を伝えてくれる。このように、紙芝居は様々な可能性のあるインタープリテーションの道具でもある。

現今、在日本各地，有許多運用像是「紙芝居」（紙劇場）這樣的兒童文化財來振興地方的例子。右方的照片是在日本山口縣下關市進行歷史體驗紙芝居活動的樣子，志工們會向觀眾講述在當地的傳說。

志工們把「紙芝居」的木箱小舞台裝在腳踏車上，到不同的地方進行表演。只要接受委託，即便觀眾只有一個人，也會透過精采的表演，將地方的魅力傳達出去。像這樣，「紙芝居」有各式各樣可能性，它也是用來進行自然解說的一種道具。



▲写真①下関市の観光紙芝居

▲照片①下關市觀光紙芝居

2 メディア&場づくりの紙芝居

二、 媒體以及氣氛製造的紙芝居

紙芝居について、堀田穰氏の「紙芝居 演じ方のコツと基礎理論のテキスト」（一声社）の中で、「①オリジナルな日本の文化。1930年に成立②対面対話の文化 ③低コスト、省エネ、ローテクなのにメディア力、強化力が強い。④演劇性と文献性の相矛盾する二面性。だれかにしてもらわないと楽しめないもの。⑤「動きの象徴性」の今の日本のマンガやアニメの源流。」と分析している。

關於「紙芝居」，京都學園大學的堀田穰教授在「紙芝居 表演的秘訣以及基礎理論的教科書」（一聲社出版）當中，是這樣分析的。「①起始於 1930 年的原創日本文化②面對面對話的文化③低成本、節省能源、低科技但擁有強大的傳播力及強化力④戲劇性及文獻性兩者互相矛盾的兩面性，必須要有表演者才能享受其中⑤「動作的象徴性」，現今日本漫畫以及動畫的源頭。」

さらに、紙芝居が生まれたルーツを辿ると、200 年前の「写し絵」・「立ち絵」から始まる大

衆文化、口演童話・絵噺から始まる児童文化。そして、二つのルーツを融合した街頭紙芝居が登場する。この街頭紙芝居とは、舞台を自転車にのせた紙芝居屋が、子どもたちの元へでかけ、水あめを売った後に紙芝居を演じるライブ活動で、大人気であったが、テレビの普及とともに衰退する。

此外，回顧紙芝居誕生的源頭，我必須要提到 200 年前由「皮影戲」及「立繪」開始的大眾文化，還有口說童話及圖畫故事開始的兒童文化。接著，而「街頭紙芝居」就是融合了「大眾文化」與「兒童文化」兩者所產生的。街頭紙芝居指的是，表演者將木箱舞台裝在腳踏車上，去到有小孩子們在的地方，賣麥芽糖給他們之後，開始表演紙芝居的活動。雖然在以前非常受歡迎，但受到電視普及的影響漸漸衰退。一方、同時代にうまれた「教育印刷紙芝居」も、戦時中は「国策紙芝居」として使われることになる。しかし、戦後はテレビにはない、手作りの暖かさや双方向性が見直された。保育現場では、教育印刷紙芝居が普及。図書館のサークルでは、手作りの民話紙芝居等も作られ、現在も様々な場で様々な紙芝居が演じられている。

另一方面，在同一個時期出現的「教育印刷紙芝居」，在戰爭時則做為「國策紙芝居」來使用。但是，在戰爭結束後，電視所沒有的「手工的溫度」以及「雙向性」被重新審視，在環境保育方面，教育印刷紙芝居漸漸普及化。在圖書館的一些同好會中，參與者會手工製作民間傳說紙芝居，現在也會於各式各樣的場所進行演出。

また、戦後のベトナムやラオス、カンボジアにも、絵本作家のまついのりこや、やべみつのり等によって、Kamishibai として伝えられている。以上のようなルーツや現状を辿れば、紙芝居は大人にも子どもにも有用なメディアであり、共感の場づくりができるツールであると考ええる。

並且，在戦後，松井紀子、矢部光徳等等的繪本作家，也將紙芝居以「Kamishibai」這個名字推廣到越南、寮國、柬埔寨。追溯了上述的起源以及現狀，我認為紙芝居對於大人或是小孩都是很有用的傳播媒材，是可以「創造共鳴」的工具。

3 紙芝居とは

三、 何謂紙芝居

紙芝居が絵本と違う点は、「①紙には文字がえがかれていない。②左にぬいて、絵を見せながら語る→絵は左にむいている。③遠目がきく表現方法④遠景・中景・近景の構図で物語りが進む⑤地の文とセリフで構成・起承転結がある」など、演じ手の存在が不可欠である。

紙芝居與繪本的差別有以下五點：「①紙上沒有寫文字②從左側抽換畫紙，一邊讓觀眾看圖畫一邊說故事→圖畫方向朝左邊③能夠看到遠處的表現方法④以遠景・中景・近景這樣的構圖方式講述故事⑤由旁白以及台詞構成・有起承轉合」，而且必須要有負責說故事的表演者。

絵本は一人でゆっくりめくりながら、読み進めるが、紙芝居は集団で読んでもらう「共感する」楽しさが特筆すべき点である。そこで、本会では、自然のすばらしさを「共感する」

ために、本会独自の布絵シアターと紙芝居を併用しオリジナルな作品を制作している。

繪本只要自己一個人慢慢翻就可以讀，但在這裡一定要說明的是，紙芝居是透過多數人一起聽故事來產生「共鳴」的。因此，在北九州自然說研究會裡，為了讓大家對於大自然的美妙之處有所「共鳴」，我們結合布藝劇場以及紙芝居，製作本會專屬的原創作品。

4、私たちのインタープリテーション活動

四、我們所從事的自然解說活動

インタープリテーションの父とよばれるフリーマン・チルデン(Freeman Tilden 1883-1980)は、その著書Interpreting Our Heritage の中で、Through interpretation, understanding; Through understanding, appreciation; Through appreciation, protection.”と述べている。

解説之父費門・提爾頓在他所寫的《Interpreting Our Heritage》這本書當中如此寫道：「Through interpretation, understanding; Through understanding, appreciation; Through appreciation, protection.」。

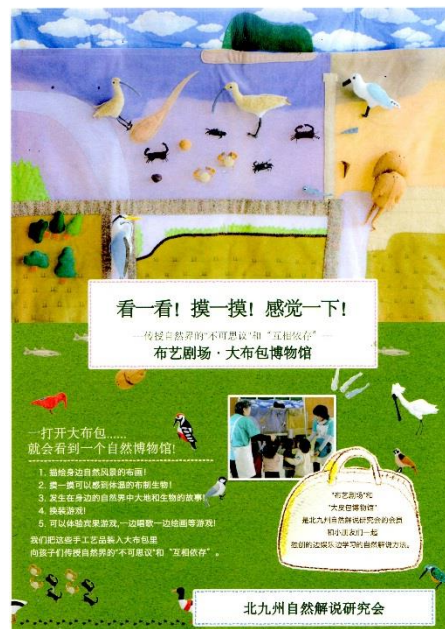
私たち北九州インタープリテーション研究会は、1998 年に閉園発表された北九州市唯一の動物園到津遊園（現在北九州市到津の森公園）の存続署名活動を展開。市民 26 万人の署名が集まり存続決定後は、インタープリテーションを学びながら、園内の自然や動物、園で行われていた環境教育の歴史をインタープリテーションする活動を始動した。

1998 年，北九州市唯一の動物園——到津遊園（現今的北九州市到津之森公園）因經營不善而宣布休園，我們北九州自然解說研究會在當時發起了保存連署活動。收集到了 26 萬名市民的連署，得以讓到津遊園繼續留存下來。在那之後，一面學習自然解說，另一方面，我們開始在園內進行關於自然、動物，還有環境教育歷史的解說服務。

2002 年からは、北九州周辺の自然や生物多様性をインタープリテーションする活動に発展した。この活動の背景には、原賀の父がこの動物園に勤務していたこともあり、園を守りたいと行動を起こし、場の保全のためにはインタープリテーションが必要不可欠であると痛感した体験に基づく。

2002 年開始，我們漸漸發展為北九州周圍的自然以及生物多樣性的自然解說。發起連署活動的其中一個原因，是我的父親曾經在這座動物園裡工作過，為了讓共多民眾有共鳴，確保動物園的存續，我認為，一定要好好介紹解說大自然的美好給民眾知曉。

見て・触って・感じてもらえる環境教育を目指して、地域の自然や生物についてまなびなが



写真②布絵シアターのパンフレット

中国語訳版

照片②布藝劇場手冊簡體中文版

ら、子どもたちの心に響く共感のツールを制作・実演・改良を行っている。

「看一看・摸一摸・感覺看看」，我們將這三點做為環境教育的目標。我們也致力於一面了解當地自然風貌及其棲息的生物，一面努力不斷去製作能夠觸動小孩子們心弦的道具，而且進行實際演練與改良。

5、北九州市での実践

五、 在北九州市的實際作為

1) 布絵シアターかばんミュージアムという手法

1) 名為布藝劇場・大包包博物館的自然解說手法

以上のような経緯を経て、北九州インタープリテーション研究会は布絵シアター・かばんミュージアムという独自のインタープリテーションの手法を 2002 年に開発し、生物多様性・生物の生活史等を紹介しながら、参加型で伝えることを主眼としている。

經歷上述的過程，我們「北九州自然解說研究會」曾在 2002 年開發一個名為「布藝劇場・大包包博物館」的獨創自然解說手法，並且著眼於與觀眾互動的形式來介紹生物的多樣性及其成長史。

この手法は、布製の手作りの布絵と生物模型、変身コスチュームとストーリーを組み合わせたもので、現在 15 プログラムあり、持続可能な地域づくり＝地球づくりを願って、インタープリテーションしている。布絵シアターは、海外との交流の場でも、わかりやすいと好評であり、英語、中国語、韓国語のパフレット写真②も制作している。

這個工法，是結合布製的手工布藝、生物模型、變裝服和故事而成。現在我們手上總共有 15 個計畫，盼望地方永續發展（地球永續發展）的目標來進行大自然的解說。布藝劇場在國際交流の場合上，因為淺顯易懂的特點而受到很好的評價，照片②是我們製作的英文、中文、韓文版本的手冊。

2) 布絵シアター「曾根干潟・春・夏・秋・冬」

2) 布藝劇場「曾根干潟・春・夏・秋・冬」

「曾根干潟・春・夏・秋・冬」写真③の布絵シアターは、国立公園には指定されていないが、渡り鳥の多く飛来する北部九州の重要湿地である。本会はこの干潟の重要性や生物多様性を伝えるために、布絵シアター・かばんミュージアムという独自の手法で様々な地域でインタープリテーションをおこなっている。

照片③是布藝劇場「曾根干潟・春・夏・秋・冬」，曾根干潟雖然沒有被指定為國家公園，但是會有很多候鳥飛過來，是九州北部很重要的溼地。本會就曾經為了向大眾傳達這個干潟的重要性以及它的生物多樣性，以布藝劇場這個獨創的手法在各式各樣的地方進行自然解說。

写真③の布絵の他、生物模型や渡り鳥などの変身コスチュームなども、写真④のかばんの中に入れ、観察会などの事前学習・カブトガニ観察会などの現場でも活用し、干潟の保全につ

いて考えあう場をつくっている。

除了照片③的布藝之外，也將生物模型、候鳥等等的變裝服放進照片④的包包裡，將它運用於觀察活動的事前學習以及中華鰲觀察活動等等的場合，營造讓大家思考干潟保存的氣氛。

布絵シアターは、大きく、見やすく、美しく、わかりやすい教材であるが、制作は、本会の副代表で布絵本づくりのベテラン加藤久美子さんの手作り 1 点ものであるため、この教材を使って伝えるインタープリター（演じ手）をふやすことは難しい。そこで、紙芝居 写真⑥「みんなの曾根干潟」を制作し、時と場に応じて使いわけている。また、印刷紙芝居や絵本などにして普及することを検討している。

布藝劇場是個體積大、好看、易於使用又容易理解的教材。它是由本會的副代表，同時也是布繪本老手的加藤久美子小姐一個一個手工製作出來的。但由於要推廣使用這樣的教材，讓更多教員進行自然解說有些困難，因此，我們另外製作了照片⑦的紙芝居「大家的曾根干潟」，依照時間及場合分開使用，同時我們也正考慮另製印刷紙芝居或是繪本。



写真③布絵シアター「曾根干潟・春・夏・秋・冬」
照片③布藝劇場「曾根干潟・春・夏・秋・冬」



写真④布絵などがはいつたかばん
照片④裡面裝了布藝的包包



写真⑤カブトガニ観察会での布
絵シアターをつかったインター
プリテーションの風景

照片⑤在中華鰐觀察活動上
使用布藝劇場進行自然解說
的情形



写真⑥ 紙芝居上演風景
照片⑥表演紙芝居的樣子



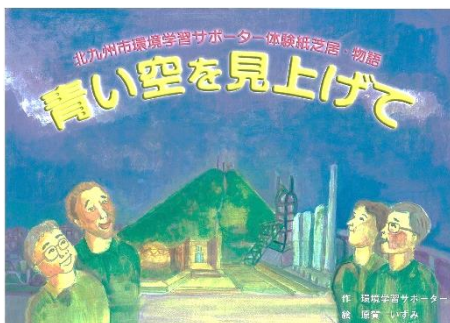
写真⑦「みんなの曾根干潟」
照片⑦「大家的曾根干潟」

3) 地域の宝をインタープリテーションする紙芝居

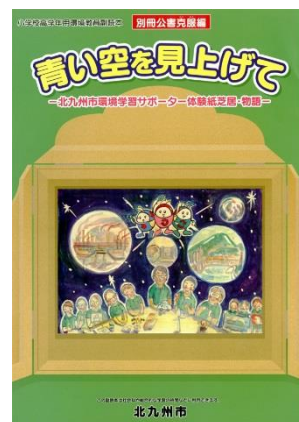
3) 解説地方之寶的紙芝居

i 公害克服を語り伝える紙芝居

i 講述克服公害的紙芝居



写真⑧紙芝居「青い空をみあげて」



写真⑨「青い空を見上げて」北九州市副読本

照片⑧紙芝居「仰望藍天」

照片⑨「仰望藍天」北九州市副讀本

北九州市は公害克服を経験してきた都市である。そこで、写真⑦「青い空を見上げて」は、筆者が環境ミュージアムのボランティアとして、公害克服の歴史をボランティアの視点から語り伝えるために、脚本と絵を担当して制作した。この紙芝居をもとに、北九州市が小学生向けの副読本としても制作、啓発活動に活用されている。

北九州市是個曾經戰勝過公害的都市，於是，我以環境博物館志工的身分，想從志工的角度去推廣戰勝公害的歷史，因此來製作腳本，並進行繪畫。照片⑧是我們製作的紙芝居「仰望藍天」。並且我們以這個紙芝居為藍本，運用在啟發的角度，製作出北九州市小學生們使用的輔助教材。

ii ホタルの生活史と保全をよびかける大型立体紙芝居

ii 螢火蟲生活史以及呼籲保育的大型立體紙芝居

環境首都北九州市は、ホタルの保護団体が 30 近くあり、ホタルを中心にした環境保全が盛んである。ホタルの生態を子どもたちと共に観察し、北九州はたる館の協力も得てホタル紙芝居を制作した。この紙芝居の中では、変態するホタルの姿を生物模型で表現し、背景の 4 場面は紙芝居になっている。

「自然・環境保護首都」北九州市裡，有將近 30 個螢火蟲保護團體，以螢火蟲為主的環境保育非常興盛。我們常和小孩子們一起觀察螢火蟲的生態，也得到北九州螢火蟲館的協助，製作了螢火蟲紙芝居。我們在這個「紙芝居」，以生物模型的方式來彰顯螢火蟲的整個生長歷程，背景的四個場景則是以紙芝居的形式來表現。

また、ホタルが食べる蜷の絵には穴があいていて、脱皮したホタルが飛び出すなどの工夫もしている。紙媒体だけでなく、立体も組み合わせることで、よりリアルに伝わる。この紙芝居を見た後、ホタルクイズなども行い、ふりかえりを行う。紙芝居と布製の生物模型も併用することで、子供たちにとって、ホタルがより身近に感じることができる。

另外，我們在螢火蟲的食物——川蜷螺的圖畫裏挖了一個洞，脫皮後的螢火蟲會飛出來等等，在這些表現上我們下了很多功夫。不只有紙類媒材，我們也組合成立體的樣子，可以更真實的傳遞資訊，表演完紙芝居後，也會進行猜謎遊戲還有回顧。我們認為透過結合紙芝居以及布製生物模型，可以增加小孩子們對於螢火蟲親近感。



写真⑩大型紙芝居「くいしんぼうのホタルくん」

照片⑩大型紙芝居「貪吃鬼螢火蟲」



写真⑪ 「くいしんぼうのホタルくん」 紙芝居と立体生物模型・クイズ

照片⑪「貪吃鬼螢火蟲」的紙芝居以及立體生物模型・猜謎

iii 北九州国定公園平尾台をインタープリテーションする紙芝居

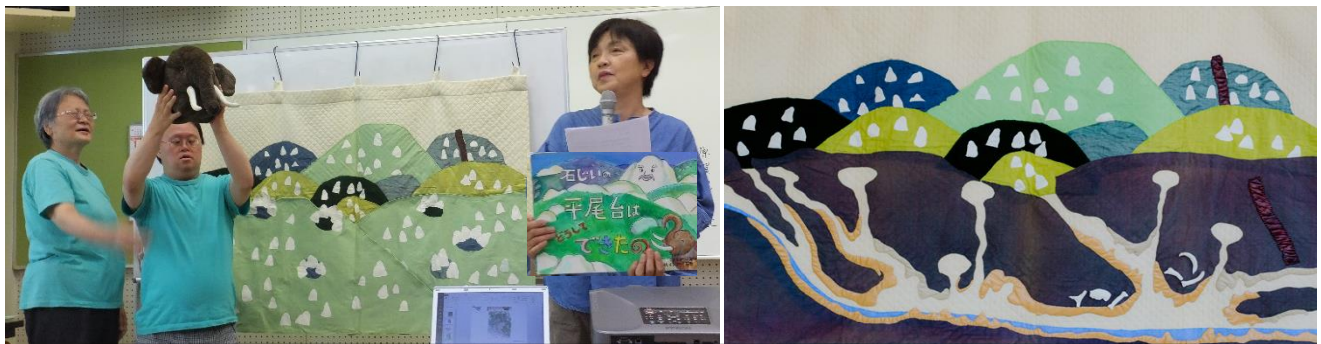
iii 解説北九州國家公園平尾台的紙芝居

平尾台は、北九州市にあるカルスト台地の国定公園である。白い石灰岩が羊の群れに見えることから、羊群原と呼ばれる風光明媚な地域である。また、カルスト特有の鍾乳洞などもたくさんある。本会は平尾台の不思議を伝えるために、ジオパークの視点から、地形の説明を布絵で、布絵では伝えにくい平尾台が形成された歴史を伝えるには有効な紙芝居を制作し、布絵シアターかばんミュージアムのインタープリテーションとして同時に活用している。

「平尾台」是位於北九州市石灰岩地形的國家公園，因為可以在白色的石灰岩中看到羊群，而被稱為「羊群原」，也有許多石灰岩地形特有的鐘乳洞，是個風光明媚的地方。本會為說明「平尾台」的引人入勝之處，從地質公園的角度，使用布藝來說明地形。而「平尾台」形成的歷史較難以布藝說明，因此我們製作了較有效果的紙芝居，運用「布藝劇場・大包包博物館」解說的方式搭配紙芝居進行。

また、石灰岩の「石ジイ」やナウマンゾウの「ナウマン」などのキャラクターをつくり、子どもたちに親しみやすく伝えている。この台地内にある湿原が、ラムサール条約登録湿地に認定への取り組みも進んでいる。さらに、改良を加えて平尾台の魅力を伝えてゆきたい。

而且，我們也創作了像是代表石灰岩的「石頭爺爺」或是代表瑙曼象的「瑙曼」這樣子讓小孩子們感到親切的角色，使資訊更容易傳遞，並且將這些角色加以改良，往後也要持續推廣平尾台的魅力。



写真⑫ 国定公園平尾台を伝える布絵シアターと紙芝居「平尾台はどうしてできたの」
 照片⑫推廣國家公園平尾台的布藝劇場以及紙芝居，故事名：「平尾台為何誕生」

iv 地域の伝統文化「神楽」をインタープリテーションする紙芝居

iv 解説當地傳統文化「神樂」的紙芝居

写真⑫は、北九州空港から南に位置する福岡県京築地域で受け継がれている国指定の民俗芸能「豊前神楽」を紹介する紙芝居である。この紙芝居を神楽鑑賞の前に見ていただくことで、神楽の舞の意味や、舞の題材となっている日本神話、衣装や面の紹介などが理解しやすい。筆者が脚本と絵を担当し、英語訳も付け、福岡県が印刷。各小学校に配布し地域学習に活用されている。

照片⑬是用來介紹「豊前神楽」的紙芝居，「豊前神楽」是在北九州機場南邊的福岡縣京築地區，它是從以前一直傳承到現在的國家指定民俗藝能。在觀賞神樂之前先欣賞這個紙芝居，可以更容易理解神樂舞蹈的意義，也可以更了解那些被拿來當做舞蹈題材的日本神話，以及服裝跟面具的介紹。筆者負責腳本以及繪畫的工作，也附上英文翻譯，由福岡縣政府來印刷，發給各所小學活用於地區學習。

また、同じく福岡県と協同で制作した地域カルタ「京築かるた」は地域の自然や伝統文化・食などを詠みこみ、子どもたちのカルタ大会も活発に行われている。また、このカルタに詠まれた地域をすごろくマップとして制作、山の名前、川の名前、希少生物なども、すごろく

やカルタを楽しむ中で学び伝えることができる教材となっている。

另外，同樣也是與福岡縣政府共同製作的地區介紹卡「京築歌牌」的讀誦比賽也都有盛大的被舉辦著。而卡片中出現的地名也都會出現在日本大富翁遊戲的地名中。透過這種日本大富翁的遊戲，可以學到許多日本山嶽、河川、稀有動物的名稱。因此，也是個好教材。



写真⑬ 京築カルタ・すごろくマップ・「しっちよる？神楽」紙芝居 原賀作
照片⑬筆者製作の北九州京築地區歌留多・大富翁地圖・紙芝居「你知道嗎？神樂」

4・穴あき芝居の可能性

4) 挖洞紙芝居的可能性(※挖洞紙芝居意指在畫紙中央挖一個洞，讓觀眾猜謎的紙芝居)

最後に、インタープリテーションのための紙芝居として、私が有効な手法であると考えるのが、「穴あき紙芝居」である。考案者のやべみつのりさんは、「ひとつの穴をあけることで、抜く過程をヒントに楽しむ仕掛けで、人と観客が生身で対話して楽しめる場所がいいと思っています。クイズ形式のこうした紙芝居は、アドリブも楽しめますし、想像力を刺激しながら次の展開がたのしめます。」と述べている。

最後，我認為自然解說的紙芝居當中，「挖洞紙芝居」是有效的手法之一。構思出這種手法的矢部光德先生的解說如右：「透過將畫紙挖開一個洞，在抽換畫紙的過程中，觀眾會期待表演者的提示。像這樣以猜謎形式進行的紙芝居，大家也能夠享受即興演出，一邊想像，一邊期待後續的故事發展。」

ツアーや観光客に地域の自然や文化をインタープリテーションするために紙芝居が用いる場合、紙芝居を読むことに拘るあまり、時間がかかりすぎ、本来のインタープリテーションの意味が見えなくなる時もある。紙芝居は有用なツールではあるが、訪れた人に対し

て興味を喚起することができなければ、おしつけとなり、地域の価値再発見や保全に向かう気持ちを伝えられない結果にもつながる。

用紙芝居來向旅遊團或是觀光客解說當地生態以及風俗文化時，會有因為太過拘泥於說故事，導致花費太多時間，反而失去原本自然解說的意義。因此，雖然紙芝居是很有用的道具，但若是無法喚起到訪者的興趣，就會變成說教，甚至無法傳達地方價值的再發現或是保育的理念。

紙芝居に穴をあけて覗いてみると、インタープリテーションしたい事が見えてくる。穴の中に、自分が伝えたい生き物やフィールドを描き、穴の中に見えるものをクイズのように、観客に問いかけながら、参加型で伝えることができる。干潟の保全への共感を引き出すために場面展開を考えて制作したのが写真⑦の「みんなの曾根干潟」である。

將紙芝居的畫紙挖一個洞，看看那個洞裡面，可以看到想要解說的事物。在那個洞裡面畫上自己想要介紹的生物或者環境，讓觀眾去猜在洞裡面看到的事物是什麼，就能夠營造出和觀眾互動的環境。照片⑦的紙芝居「大家的曾根干潟」便是為了引導出大家對於干潟保育的共鳴，構思了故事而製作的。



⑭やべみつのり作「ふしぎなまど」

⑭矢部光徳先生的作品「不可思議的窗戶」



⑮原賀作「おにぎりえんそく」

J A紙芝居コンクール入賞作品

⑮筆者的作品「飯糰遠足」

入圍 J A紙芝居大賞

5、大学の授業で穴あき紙芝居

六、 在大學課堂上創作挖洞紙芝居

コミュニケーションツールとしての紙芝居という視点で、私は保育士や教員を目指す大学生に穴あき紙芝居をつくる授業を行っているが、写真⑮の学生の作品は、穴の中に描かれた身近な自然に生息する動物の足跡をクイズ形式で考えさせる作品である。たった4枚の紙芝居であるが、クイズと違う点は、脚本として、起・承・転・結があり、さいごは自然への共感をわかちあう展開となっている。インタープリテーションしたいもの、伝えたい人（対象年齢）を考えることで、絵だけでなく写真を使ってもよい。工夫いっぱいのオリジナルなインタープリテーションの道具となると考える。

我把「紙芝居」當做一種溝通的道具，針對想要成為幼稚園老師或是職員的大學生，我開設了製作挖洞紙芝居的課。照片⑯是學生的作品，洞裡面畫了生活在我們周遭大自然的動物的腳印，用猜謎的方式讓觀眾去思考。雖然只有四張畫，但跟單純的猜謎不一樣的是，劇本裡有起承轉合，最後則可引導孩子們對周遭大自然的共鳴。來思考想解說的事物、想要服務的對象以及年齡，不只繪畫，也可以使用照片。我認為，挖洞紙芝居是下了許多設計並且原創的自然解說道具。



写真⑯西南学院大学での授業に於いて 学生作品「だれのあしあとかな？」

照片⑯西南學院大學的課堂上 學生的作品「是誰的腳印呢？」

6、まとめ 国立公園でのインタープリテーションを考える

七、 總結 構思應用於國家公園的自然解說

近年、国連によるSDGsの17の目標が掲げられ、多様な持続可能な地域課題の解決策が求められている。紙芝居という、人から人へ語りかけ、伝えるメディアは、AIにはない暖かさがあり、様々なニーズやテーマにあわせ、手作りされたり、印刷されたり、小型から大型まで多様な方法で制作され、活用されてゆくと考える。素晴らしい自然が残る台湾に於いて、この自然や文化を伝えるための最適なインタープリテーションとしての紙芝居には、どんなものがよいかという問いに答えはない。

近年，聯合國提出了17個永續發展目標，期盼多樣且可永續發展的地方課題能夠得以解決。紙芝居這個由人說給人聽、傳達給人的媒體，擁有人工智慧所沒有的溫度，能夠因應不同需求以及主題，而且是手工製作、印刷，有小型到大型各式各樣的型態，我認為往後也會一直持續被製作並且活用下去。在擁有美妙大自然的臺灣，絕對可以透過「紙芝居」來解說與傳達臺灣的各種美。

まずは、どんな人に見てもらいたいのか、大人か子どもか、どれくらいの規模の場で演じたいかなどを考え、つくってみて、演じてみて、様々なものを組み合わせてみたりしながら、個々の国立公園オリジナルなインタープリテーションとしての紙芝居を考案してほしい。大切なことは、見た人の心に残るものであれば、それがベストなのではないだろうか。

首先，我希望大家要去思考「想給什麼樣的人看？大人還是小孩？要在什麼樣的規模下表演？」，希望各位透過實際製作、演出、組合各式各樣的東西，進而

構思每個國家公園原創的自然解說紙芝居。最重要的是，要能夠讓觀看過演出的人心裡留下印象。



写真⑰北九州市にある動物園 到津の森公園のサマースクールにて 原賀作大型紙芝居の上演
照片⑰位於北九州市的動物園——到津之森公園的夏日學校 演出筆者製作的大型紙芝居